

## 御礼

秋季審査会におきましては、ご審査をして頂き誠にありがとうございました。また、日頃の稽古におきましても、厳しくも心のこもった温かいご指導をして頂き、改めて感謝の気持ちを申し上げます。

去年も昇段審査を受ける条件は整っていましたが、色々と考え自問して、もう一年間稽古に励んで頑張ろうと決めたことは良かったのですが、今回の演武の内容はあまりいい出来ではなく、辛うじて合格したのだと云う事を頭に入れて、今まで以上に鍛錬を積み重ねていきたいと思っっている次第であります。

ひとつには、今まで教わった業を将来的に指導が出来るように熟知して、自然体で出来るように鍛錬を重ねていくことです。

二つ目には、いつも指摘を受けている事ですが、丹田を意識して身体の上下の動きを無くす事と、手の絞りを意識して大きな剣を振る事に心掛けることです。

三つ目には、四段の学科試験の内容の意味合いを、頭で理解するだけではなく、少しずつより一層深く分かるように稽古に励んでいきたいと思っっています。

四つ目には、これから審査員としての勉強がありますので、館長・師範の指導方法に耳を傾けて、学ばせて頂きたいと思っっております。

五つ目には、今まで以上に高段者としての自覚を持つとともに、後輩の方々の良き見本となるように心掛け、きちんとした指導が出来るように精進していきたいと思っっております。

「平成三十年記念 福岡県武道大会」に於いては、館長・師範の武道に対する並々ならぬ想いを日々肌で感じておりました。

記念の武道大会と云う大きな行事が終わって一息つく間もない秋季審査会、館長・師範共にお忙しいところを、誠にありがとうございます。

館長・師範のご指導のお陰で何とか無事に四段に昇段することが出来ました。

まだまだ未熟者ではありますが、今回の昇段審査をひとつの節目として、感謝と謙虚な気持ちを持って、日々の稽古に励んでいきたいと思っっております。

今後引き続きのご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成三十年十二月十三日

古家秀一郎